



コウガの森・共和から

園長 小林 崇

健康診断が始まります

園の庭では新芽が芽吹き、花壇の芝桜にも花が付き始めるなど新緑の季節の訪れが感じられるようになりました。新しい年も一月が経ち、当初は泣き声が聞こえた保育室からも先生やお友達と関わり、遊ぶ声が聞こえ始めました。

今、園の中では先生たちから「今日、こんなこと出来たんです」、「今日はこんな嬉しいことがありました」、「家庭からこんな成長があったと教えてもらいました」と日々、園児の成長を喜ぶ声が聞こえています。休まず登園してくれること、園での先生たちの丁寧な関わりに園長として喜びをもって過ごしています。

さて、5月から園では健康診断月間が始まります。梅花福祉会では園児の健康状態を様々な検査を通して把握することを伝統としてきました。専門医の検診を含め、土踏まず検査、視力検査、聴力検査などの検査や身長体重などの測定など園児の健康情報を集中的に取り組む期間となっていて、他の園にはない特徴的な取り組みが行なわれています。

健康診断月間では副園長、主任、担任が一丸となってデータの収集、集計、傾向の分析、各家庭への報告、園での取り組みの見直しなど、園全体で健康状態の把握と保育の改善を行ない、園としては大変な労力をかけて実施していきます。これは、子どもたちの成長の課題になっていることを理解したい、課題があるならば改善したい、成長の喜び・課題を家庭と共有したい、課題の解決に家庭とともにあたりたいという現理事長の想いがルーツにあり、梅花保育園・共和梅花保育園で実践されてきました。

健康診断の結果は、特集号としてそれぞれの園児ごとに配布されます。健康診断の結果を受けて、専門機関での再検査のお願いや家庭でも取り組んでいただきたいことについてお願いもします。5月から始まる健康診断を通じて、子どもたちの育ちを共有し、よりよい成長を支援していきたいと強く願っています。どうぞ協力をお願いします。

コラム

「薄着で過ごそう！ 半袖半ズボン」

朝の受入では先生が子どもの手をとって、「先生おはようございます」から始まる挨拶を行なっています。挨拶の中では、子どもの体温や表情、目の動き、服装などを確認し、一瞬のうちに子どもの健康状態を観察しています。最近気になるのは、子どもの手の温度の高さです。

子どもは大人と違い、身体を温めるだけの十分な血液を末端まで送ることが出来ません。子どもは身体を動かすことでこの機能を達成しようとします。そのため手が冷たいことが平常の状態です。大人の皮膚感覚のまま厚着していると体温はすぐに上昇し、身体の熱を冷まそうと身体の動きは止まってしまいます。

暖かな季節になりました。5月の連休明けからは裸足での保育が始まります。肌は感覚が集中する器官です。外気に触れること、様々な感触を味わう絶好の季節です。

半袖・半ズボン。薄着で登園しましょう。